

## ワールドフードインディア2024 結果概要

9 閣僚代表団  
視察団

1208 出展者数

715 90カ国以上からの715人の  
海外バイヤーと218人の  
国内バイヤーが  
RBSM会議に参加

16 外国要人  
国公費

15 15カ国ハビリオン、10パートナー省庁、  
25州、6商品委員会、8協会パートナー

91 70社を超える大手企業  
からの91人のCXO

6 国際閣僚級会合6回、  
G2B会合112回、  
B2B会合16,283回

47 47のテーマ別、州、関連省庁、  
国および組織のセッション

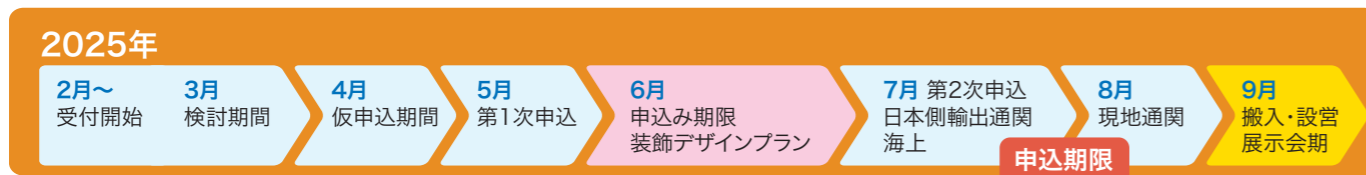
昨年よりも多くの企業に出店していただいた本展示会。積極的なアプローチに対しインド事業者の反応も高評価であり具体的な取引に繋がった企業もあるなど、昨年よりも成果があったのではないかと思います。インドはカレー（マサラ料理）しか食べない、という表面的な情報。インドから日本を見ると日本人は魚しか食べない、と思われているのと同様に巨大な人口を保有するインドの人々が単一で「カレー（マサラ料理）」訳ではない。ただ自国料理がマーケットに多く存在する為他の料理を知らない、食べるきっかけが無い、という事から自国料理に偏っているだけであり可能性は未だ誰も試していないのである。

### ブース出展料金

小間の種類	ミニマムスペース	出展料 / 平方メートル
基礎ブース	12 sqm	200 USD / sqm 予定
装飾ブース	36 sqm	160 USD / sqm 予定

- ※ 上記金額に加えインド消費税18%が別途必要になります。
- ※ 海外出展者(日本)の場合料金がインド国内出展者と料金が違います。

### 進行スケジュール



### お問い合わせ

#### 申込期限

申込期限内でも  
小間がなくなる  
場合があります

第1次出展申込期限:  
2025年 6月30日(月)

第2次出展申込期限:  
2025年 7月30日(水)

支払日: 7月30日(水) 100%支払い

※ インド消費税18%が別途必要になります。

JiIPA NPO法人 日印国際産業振興協会  
Japan India Industry Promotion Association (JIIPA)

TEL: 03-5733-5068

担当者: 大沼  
ブラシャント / 090-3964-8171

E-mail: info@npo-jiipa.org

〒105-0004 港区新橋 6-9-2 新橋第一ビル本館 2FD号  
FAX: 03-5733-5047 www.npo-jiipa.org



# 世界最大級・食品総合展示会 ワールドフードインディア2025

出展者募集

WORLD  
FOOD INDIA  
2025 25<sup>th</sup> to 28<sup>th</sup> September  
Processing for Prosperity

25<sup>th</sup> to 28<sup>th</sup> September 2025

"Where the world meets to shape the future of food processing!"

@worldfoodindia | www.worldfoodindia.gov.in

政策課題に向けた  
ラウンドテーブル会議

展示

テーマ別セッション

BtoB/BtoG/GtoG  
会議

フードストリート

スタートアップアワード

日本代表事務局 JiIPA NPO法人 日印国際産業振興協会  
Japan India Industry Promotion Association (JIIPA)

● 前回 (2024) の展示会レポート

■ 展示会場とJIIPAのジャパンパビリオン

多くの来場者が訪れた日本パビリオンではお酒の試飲から試食を含め来場者へ提供を行いながら消費者の意見などを直に聞き、またBtoBなどへの商談なども実施。昨年と比べると積極的な関心好奇心を持たれた方が多く、「昨年と比べ原料としての注文などをいただき、大型の取引が決まりそう。積極的な仕入れ意識から日本の食材に対する関心も高いと感じました」と出展者から昨年に対する評価もいただきました。

インドのVIP 含め日本大使館より招待のレターを送り、インドの皆様へ日本料理の提供を行うパーティーを実施。本パーティーの目的ですが、日本料理を日本から一般社団法人シェフドの皆様へ訪問い

ただき、現地インドの料理学校学生が日本料理を学びながら作り、提供するという初の試み。この繋がりを切り口にインドでの日本料理継承を当会では支援を行っていきます。

昨年、当会ではコロナ明けに開催されたWFI2023 で感じた日本の食をインドへ掲げる前提にまずは日本料理の広さを含め様々な料理がある中で、インドの方々へ受け入れられる料理を軸足に食をひろげていく。という構想を元に本年度はこうして料理を通じインドで料理を伝えられた事。また若い世代の方に知っていただき、そして自ら創作し広げていってくれる事を願った。本イベントがこれからの日本の食に携わる全ての事業者にとって希望であって欲しいと思います。



● 会場マップ WoldFood India2024

9月19-22までデリーで開催されたWold Food India2024。当協会ではJapanパビリオンとして25社が参加。昨年の参加社数よりも出展企業が多いカタチとなりました。人口最大国として、また製造大国のテーマとして掲げるインドですが、日本でも中国からインドへとマーケット拠点を考える企業も多く、本年度は予想よりも多くの企業が出展し商品をPRしました。Wold Food Indiaでは日本以外にも多くの国がブースを構えアジア諸国ではベトナムなどが力を入れて商品をPR。各国も巨大なマーケットへの糸口を模索しながら活路を見出している様子です。



● インドのマーケットについて

■ インドの今(デリー編) 溢れる人口と所得差

デリーの街は人で溢れ、貧困と悪環境が混在し、都市ではあるが、デリーは古くからの土地であり人が行き交う交差点である事からも観光地なども含め市場なども人で溢れかえる。移動手段として車、リキシャ(三輪車)そしてバイクが多く排気ガスによる急激な環境悪化、また水道などのインフラも古い事から水害などもある。こうした中で生活を営む人々の所得格差は街の至る所で見ることができる。デリーに至っては人口が多いがもちろん格差も激しい。販売店舗などは個人店が圧倒的に多いインド。一定所得層は郊外のモールやネットショップ利用が多いとの事。ビジネスを考えるのであればデリーではなく、開発が進むデリー周辺のエリア(グルガオン)などの方が可能性が高く、また所得も一定以上ある為、物販に置いてはお勧めである。



■ インドの今(デリー編) ナイトマーケット

日中よりも夜の方がモールや広場を含め賑わいを感じる。ビアクラブなども含めお酒を出すお店も含め活気のある一面を見ることができます。提供される料理もモール内のフードコートは価格的に安い、街中の飲食店(個人店)などよりは高めであり一定所得層が利用する。また、入り口に受付があるお酒提供店などのメニューは1品1000円以上など日本と比べても高い価格で提供されている。



■ フードショップ・リテール&ファーストフード

一般消費者向けのスーパーマーケットと輸入食品を中心として扱うハイパーマーケット。どちらも共通して言えるのはグロッサリー商品を中心に構成され、野菜や果物の生鮮品。ただし肉や魚は販売していない。主にベジタリアン消費者に対する棚構成が基本と感じられる売り場づくり。魚や肉を扱うスーパーもあるが、売り場は壁で囲まれて目立たない様な宗教的な配慮が見られる。

リテールショップは個人オーナーショップがインドでは圧倒的に多い。飲食も同様だがチェーン展開するリテールショップはまだまだ少ない。食品の流通におけるロジスティクスの整備も含めまだまだ発展途上国の領域今後、コンビニなどのチェーン展開も含めリテールの進化に期待したい。

